

シギ・チドリ類の観察で秋の訪れにふれよう

北国で繁殖を終えた、シギ・チドリが、県内各地の、川の干潟、水田、河原などで翼を休めています。そこで、今号では、シギ・チドリについて、その特徴などと、どこへ行けば観察できるのか——を中心に、特集を組んでみました。少し、時期遅れかな、とも思いましたが、これを参考に、シギ・チドリを少しでも観察できれば幸いです。

大旅行家(?)として知られる、シギ・チドリは、一年の間に、南半球と北半球の間、数千キロを往復飛行するわけです。つまり、オーストラリア、東南アジア方面で越冬をし、北部シベリア、アラスカ方面へ繁殖のために、出かけていくわけです。

日本に立寄るのは、北へ向う4～5月と、南へ帰る7～10月の2回です。干潟や河原などに立寄るシギ・チドリたちは、カニ・ゴカイ・貝・水生昆虫などを食べ、エネルギーを貯え、翼を休めていくのです。

シギ・チドリ類は、種類も多く、似たもの同士が沢山いるため、識別が難しいとされ、敬遠される人が多いようです。が、観察するには、非常に面白い鳥です。

識別するときの主なポイントは

1 大きさ

小はスズメ大のトウネンから、大はカラスより少し大きいダイシャクシギまで、さまざまです。

2 くちばし

シギ・チドリ類の外見上のいちばんの特徴は、さまざまな形と長さの、くちばしにあります。(下図参照)

3 色彩

夏羽と冬羽とでは、著しく違うものが多いので、注意を要する。夏羽では、赤褐色味を

帯びるものが多い。冬羽では、一様に上面灰褐色、下面灰色のものが多い。

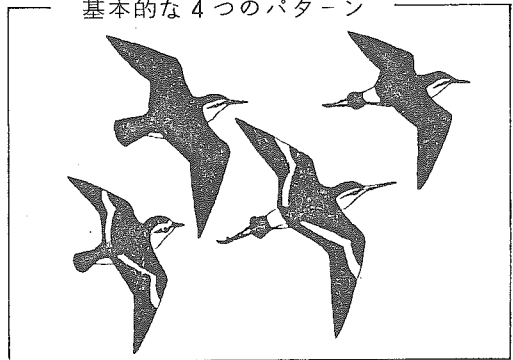
4 足の長さや色

足の長さは、飛んだときに、尾をこえてどうかを見ること。足の色は、赤、青、黄、黒とさまざまですが、野外では、なかなか見分けにくい。

5 飛翔時のパターン

地上にいるときには、なかなか見分けにくい鳥も、飛翔時に著しく特徴の出るものが多い。シギ・チドリ類を識別する上で、これは大変、役に立つことが多い。

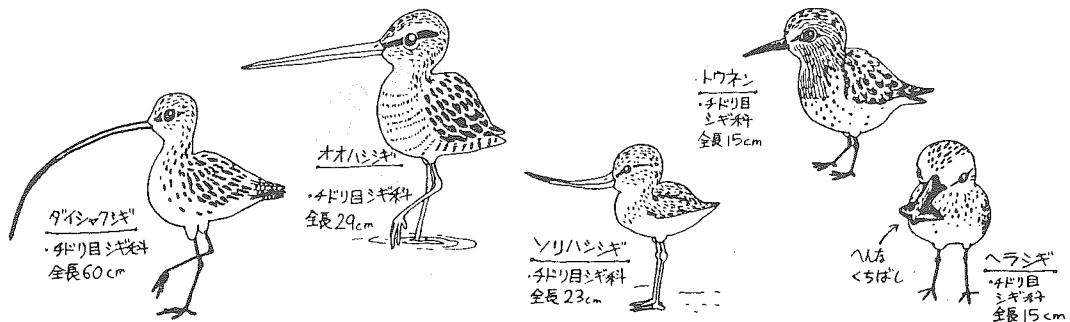
基本的な4つのパターン



『野鳥識別ハンドブック』(高野伸二著)から

6 その他

- 種別により、いる場所が違う。
 - エサのとり方が違う。
 - 鳴き声に特徴のあるものが多い。
- などです。



シギ・チドリの飛来する主な
探鳥地は

1 阪東大橋（本庄市）

利根川の広い河原の浅瀬と中州には、シロチドリとハマシギのそれぞれ、群れが見られます。他には、クサシギ、ムナグロ、キアシシギ、ウズラシギ、トウネンなど。

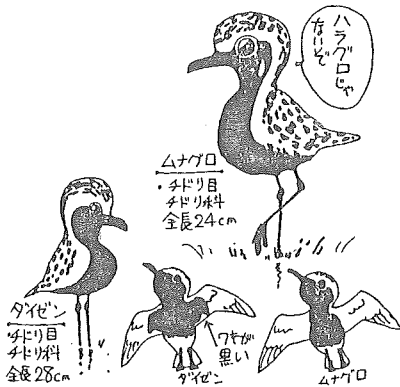
交通＝高崎線・本庄駅下車、北口から東武か群馬バスで、阪東大橋南詰下車。

※9月15日に探鳥会があります。

2 秋ヶ瀬・大久保田んぼ（浦和市）

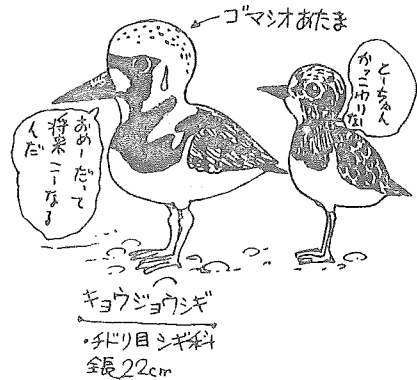
稲の刈り取られた田んぼには、500羽以上のムナグロが見られます。他には、キアシシギ、タンギ、タマシギなど。

※9月15日、シギ・チのカウント探鳥会。



3 渡良瀬遊水池

栃木・群馬・埼玉の3県にまたがり、33ヘクタールにおよぶ、広大な草原の中の沼や湿地に川が何本も走り、多くのシギ・チドリが毎年、記録されています。秋には、オグロシギ、アオアシシギ、コアオアシシギ、エリマキシギなど、内陸性のシギを中心に、十分観



察できます。

交通＝東武日光線・柳生駅下車、徒歩10分。

※9月14日（土）、10月10日（祭）に探鳥会。

4 谷津干潟（千葉県）

県内では見られない、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、オオソリハシギ、ダイゼンが必ず、観察できます。会員の皆さん、ぜひいちど、行ってみてください。

交通＝総武線・津田沼駅下車、京成バス・秋津団地行きで、津田沼高校前下車、徒歩5分。

※9月22日（日）に探鳥会。

5 その他

- ① 熊谷市大麻生＝荒川、押切橋付近（アオアシシギ、イカルチドリなど）
- ② 大宮市深作田んぼ調整池（アオアシシギ、ツルシギ、クサシギ、タンギなど）
- ③ 大井野鳥公園（ソリハシギ、メダイチドリ、セイタカシギなど）

（カット・比企 裕）

キジ（キジ科）

この鳥とつきあって、随分になる。メスを4～5羽連れてくるもの、メスを2羽ぐらいしか連れてこないもの、1羽のメスも連れず溢れオスばかり独身を楽しんでいるのか寂し

がっているのか、小生にはわからないが、オス（表紙写真）ばかりの集団。一見きれいだ（世界中、狩猟鳥で国鳥は、この鳥のみである）、草花や、木々の間に入れば、この美しい鳥がまた、見事に保護色となるのです。

（表紙の写真と文・中村重勝）